

都道府県別賞一等

お母さんと生命保険

大分県 別府市立別府西中学校 二学年

豊田 桜

私が小学二年生の頃、お母さんが病気で手術しました。お母さんはシングルマザーで、私含めて二人の子供を育てていて、朝は早く夜はとても遅くに仕事から帰っていました。

私はお母さんになぜ病気だと分かったか聞いてみました。お母さんに聞くと、「弟と病院に行つて診察が終わった後、無料で子宮頸ガン検診が出来ると言われて無料ならと思ってやってみた結果、小さいけど子宮頸ガンだった。」

と言っていて、こういう手間や時間がかかりそうな診断は面倒くさがらず、きちんと受けるべきだなと思いました。

お母さんが子宮頸ガンになって、小さいものだったので入院は三日ぐらいで良かったそうです。お母さんは入院するとき、「シングルマザーだから子供たち二人をこれからどうするか」という問題に頭を抱えたそうです。

そこから生命保険にお世話になり、お母さんも

「とても助かったけど、私が倒れたときとかに、二人のことを考えると、もっと保険を見直さないといけないと思った。」

と言っていました。

生命保険は家族のだれかが病気やケガで働けなくなったり、亡くなったりしたときなどの、もしもに備えるための保険です。

私は生命保険のことを調べて、家族を支える仕組みだと知って、とてもすばらしいなと思いました。これまでは「生命保険」と聞くと難しいイメージがあったり、なんとなく私にはまだ遠い話のように感じていましたが、家族を守る大切なものだということが分かりました。学校ではあまり習わないけれど、生きていく上でとても大切なことだと思つたし、調べていく中でだんだんと興味が湧いてきました。私はこんなに大切なことなら、学校の授業でちゃんとやれば良いのになと思いました。学校でやっていると、大人になったときや、いざとなったときに落ち着いて行動できると思つたからです。私たちの暮らしに関わるからこそ、関心を持って学んでいきたいなと思いました。